



農業土木

2021年度新規採用職員インタビュー

「福島を未来志向の農業へ！」

所属

相双農林事務所 農村整備部

農村整備第一課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 相双地方を所管する相双農林事務所で、東日本大震災からの復旧・復興を目的とした農地整備事業に携わっています。被害を受けた農地の早期営農再開に向け、農地の大区画化、用排水路や農道の整備のための工事の設計や監督業務を行っています。

担当している工事が進み、津波によって被災した田んぼが1haの大きな水田に生まれ変わるところを、実際に現場で確認した時にやりがいを感じます。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていること

A. 相双地方の地域農業を、東日本大震災以前よりもさらに発展させていきたいです。例えば、ほ場整備をきっかけに、農地の汎用化や大型機械を導入することで、農業に係る省力化・低コスト化を実現することができます。これは、ブロッコリーや玉ねぎなどの高収入作物の導入にもつながり、地域の農家の方々がより安定的に農業経営を行うことができるようになると考えています。



↑ 田面測量



INTERVIEW

福島で、実現する。

あなたが実現したいことは、なんですか？

Q. 県職員を志望した理由を教えてください。

A. 私は会津地方出身ですが、白虎隊ゆかりの地である戸ノ口堰洞穴を訪れた時に、戸ノ口堰の水が農業に利用されていたことを聞き、小さいころから農業用水に興味がありました。また東日本大震災を経験した時から、自分のふるさとである福島の復興に携わる仕事がしたいと感じていました。そこで大学で学んだ農地工学分野の知識をこれからの復興に活かしたいと考え、福島県職員の農業土木職を志望しました。



↑ 排水路の寸法測定



↑ 現場の施工状況確認

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「東日本大震災を経験し県職員へ」「おいしいもの」「釣り」「冬はスキー」「会津地方」

Q. 「おいしいもの」について教えてください。

A. 工事の現場などに外勤することが多いのですが、そのようなときに地域の飲食店で食事をするのが楽しみの一つです。県職員は数年おきに勤務先が県内で移動するため、異動するたびにおいしいものを探しに行けることはとても魅力に感じています。

Q. 「釣り」について教えてください。

A. 昨年の夏から先輩職員に誘われ、海に近い場所に住んでいることもあったため、海釣りを始めました。始めたばかりで、まだ投げ方なども練習中であるため、坊主で帰ることも多々ありますが、いざ釣れた時はとても楽しいです。